

# 伊勢市先導的共生社会ホストタウン関連事業

## 【障がいの有無に関らず誰もが暮らしやすいまちづくり】

- ◆障がいへの理解促進のための障がい者サポーター研修会 (2016.12～) 及び障がい者キッズサポーター研修会 (2018.10～) の実施



障がい者サポーター制度  
シンボルマーク

- ・障がい者サポーター登録者数：約1,300人
- ・キッズサポーター登録者数：約1,100人
- ◇障がい者サポーター制度周知動画作成
- ◆障がい種別ごとに理解を深めるためのステップアップ講座の実施 (肢体障がい・視覚障がい・聴覚障がい編など)
- ◆障がい者サポート企業・団体を認定 (28企業・団体 (92店舗))
- ◆ヘルプマーク・ヘルプカードの普及啓発及び配布
- ◆コミュニケーション支援ボードの配布及び周知
  - ・県内初のコンビニ用コミュニケーション支援ボードを市内全コンビニに配布
  - ・避難所用コミュニケーション支援ボードを作成し、市内全指定避難所へ設置
- ◆小学生を対象とした手話体験教室等の実施 (約1,600人受講)
- ◆聴覚障がいのある人等のコミュニケーション支援の充実
  - ・コミュニケーション支援アプリ「UDトーク」を搭載したタブレットを総合支所窓口を設置
  - ・市の各総合支所においてタブレットを使用した遠隔手話通訳を開始
- ◇個人経営などの小規模事業者を対象とした障がい者サポーター制度協力店募集開始

## 【ユニバーサルデザインのまちづくり】

- 現在実施中の事業
- 今後実施 (計画) の事業

## 【心のバリアフリー】

- ◆現在実施中の事業
- ◇今後実施 (計画) の事業

## 【市全域を対象として実施】

### ●改正バリアフリー法に基づくマスタープランを策定 (2019～2020年度)

- ・学識経験者、施設設置管理者、公安委員会、高齢者・障がい者団体代表、市民代表、商工・観光関係団体代表、国、県、市で構成する伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会を設置
- ・福祉部署、建設部署、教育委員会による庁内検討会を設置
- ・伊勢市バリアフリーマスタープラン策定協議会によるまち歩き現地確認実施
- ・高齢者、障がい者、子育て世代、一般の4分類で計4,600名を対象に市民アンケート調査を実施するとともに、障がい者団体や交通事業者等13団体へヒアリング実施

### ○バリアフリー基本構想及び特定事業計画の策定着手 (2022年度～)

- ・バリアフリーマスタープランを基に移動等円滑化促進地区における基本構想及び特定事業計画の策定に取りかかる

## (記載凡例)

目玉事業 → 赤太文字

## 【子ども達への教育】

### ◇社会参画力向上の推進

- ・環境、文化、福祉、ボランティア等に関する体験・交流学习、地域の方とのふれあいを通じた体験活動、創意工夫を生かした学習活動の実施

## 【障がい者スポーツの理解促進】

- ◆障がい者スポーツの普及啓発
- ◆パラスポーツ (ポッチャ) 用具の貸出
- ◆ポッチャ交流大会の開催
- ◇インクルーシブ・スポーツ体験会の開催
  - ・障がい者と健常者がスポーツ交流できる機会を創出する。



## 【バリアフリー観光の推進】

- 市内のバリアフリー観光情報の発信
  - ・まち歩きやワークショップを活用したバリアフリー観光マップの刷新
  - ・視覚障がい者を対象とした新しいガイド方法の検討 (ウェアラブルカメラと送信機を用いて、遠隔地から視覚障がい者に観光案内を行う実証実験を実施)
- 官民連携による神宮内宮における移動サポート「伊勢おもてなしヘルパー」の推進
  - ・取組内容の拡張の検討 (対象となる障がい種別の多様化、実施エリアや活動時間の拡大)
- バリアフリーオンラインツアーの促進
  - ・地元事業者によるバリアフリーオンラインツアーの実施を推進



## 【交通バリアフリー基本構想の推進】

- 伊勢神宮 (内宮) の最寄り駅の「五十鈴川駅」周辺地区を重点地区として位置づけ、各事業者による施設のバリアフリー整備を実施 <短期 (2020年度末まで) の取組>

- ・近鉄五十鈴川駅のバリアフリー化 (エレベーターや多機能トイレ新設、券売機蹴込、触知案内図の整備)
- ・バリアフリー対応バスの導入 (伊勢営業所管内の導入率 83.8% ※2020.11時点)
- ・歩道の段差解消や勾配改良、視覚障がい者誘導用ブロックの設置
- ・重点整備地区内の国道及び県道のすべての横断歩道にエスコートゾーン及び視覚障がい者付加装置 (音響装置) を設置



## 【ラオスパラ陸上選手との交流及び国際理解の促進】

- ◆ラオスパラ陸上選手の事前キャンプ受入及び大会終了後の交流事業実施
  - ・オンライン交流で新バリアフリーマップを紹介
  - ・市の小学生たちがラオスのことを学び、ラオスパラ陸上チーム公式ユニホームをデザイン
- ◆伊勢市国際交流協会による、国際交流・多文化共生に関する啓発
- ◆国の文化に手軽に触れることができるイベントの開催
  - ・ラオスを知る写真展や、年度末にはラオスに派遣されたJICA海外協力隊員や技能実習生の通訳士を講師に、国際交流オンラインセミナーを開催予定 (2020年度)

